

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	各教科等における特徴的な指導の実践事例
-------	---------------------

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

長崎県島原市

学校名

島原市立高野小学校

学校のURL

<http://www15.ocn.ne.jp/~kohyakko/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】全学年各1学級 【特別支援学級】0 【合計】6学級

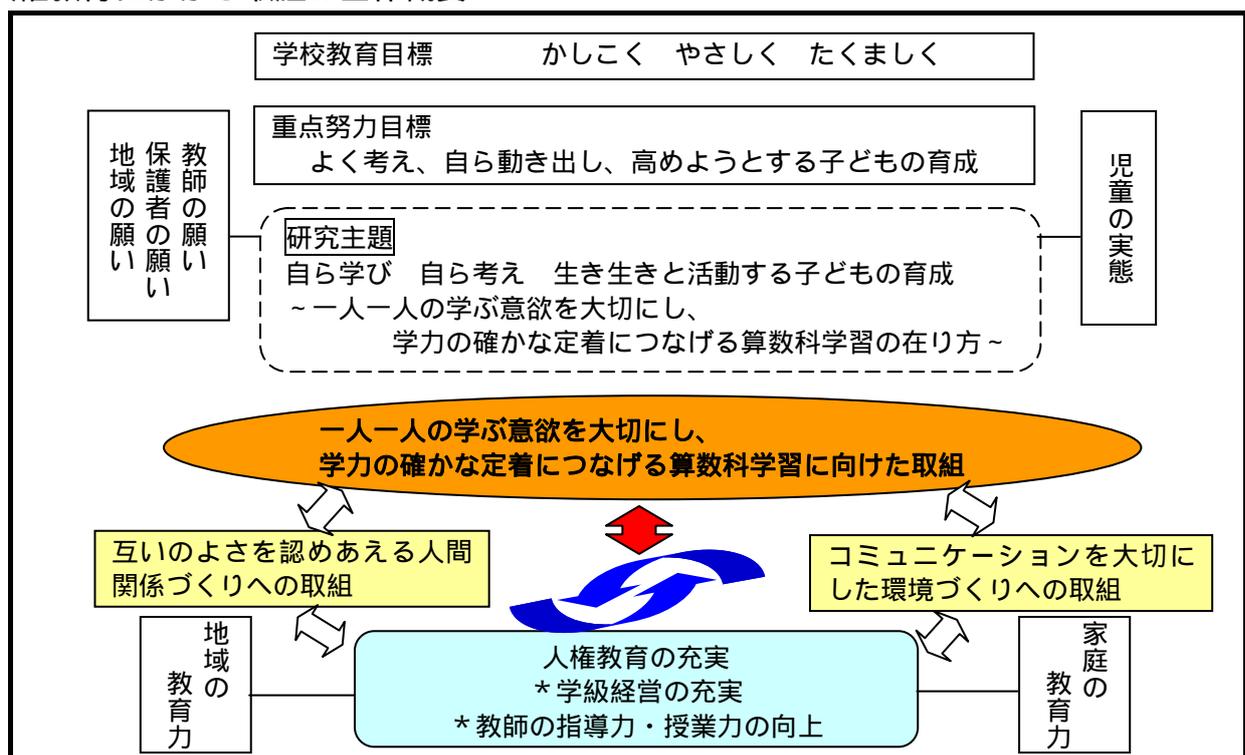
児童生徒数

【全児童数】81人(平成23年12月1日現在)
1年(15人) 2年(15人) 3年(19人) 4年(14人) 5年(9人) 6年(9人)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

学校の教育目標 ・かしこく ・やさしく ・たくましく
人権教育に関する目標
自ら学び 自ら考え 生き生きと活動する子どもの育成
～一人一人の学ぶ意欲を大切にし、学力の確かな定着につなげる算数科学習の在り方～

人権教育にかかる取組の全体概要



3. 特色ある実践事例の内容

(取組のねらい・きっかけ)

本校児童は素直で明るい、自分の思いや考えをうまく表現することが苦手である。自分に自信が持てず指示待ちになりやすい。

そこで一人一人を認め、自他を共に大切にする学級・学校づくりを通して自分に自信をもち意欲的に活動できるように学力の保障を目指したいと考えていた。

幸い本校は長年算数科の研究に取り組んでおり、その研究を深めることによって本校の願いに近づき、さらに人権意識の高揚を図ることができるのではないかと考えた。

(取組をするにあたっての課題)

保護者・地域の学校教育に対する関心は高く協力的である。地域ぐるみの行事も多く、子どもを見守り育てていこうとする意識も高いが、まだ意識の差もあるのが現実である。今後も地域・保護者に学校の意図を浸透させるための機会が必要であると考え、それぞれの役割を明確にしての実践を図ることにした。

(取組の内容)

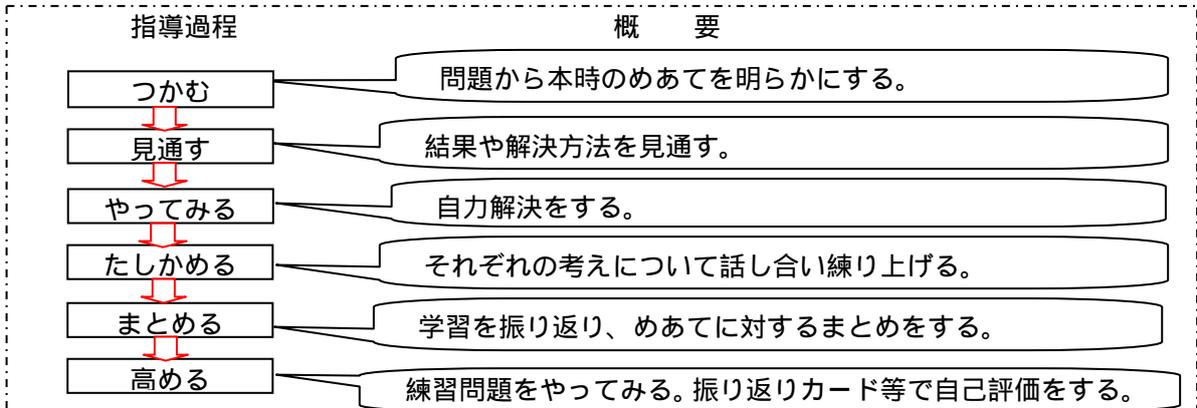
取組において「環境づくり」「人間関係づくり」を基盤として「学力の確かな定着につなげる算数科学習の在り方」を追究し、「自ら学び 自ら考え 生き生きと活動する子ども」を育成していくことが、人権意識の高揚につながると考えた。

4. 実践事例の実績、実施による効果

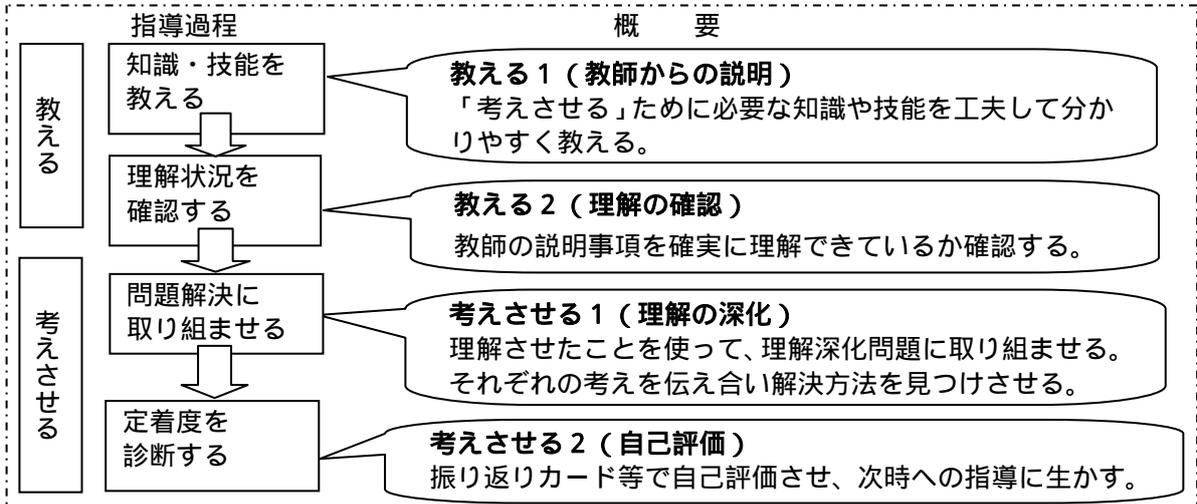
授業づくりについて

(1) 主な指導過程

【問題解決的学習】



【教えて考えさせる授業】



(2) 身に付けさせたい力

- 自分を大切にしようとする感情（自己肯定感）・・・
- 自分の思いを表現できる能力（自己表現力）・・・
- お互いを認め合う態度（共感的人間関係）・・・

(3) 人権教育の視点

- 視点 一人一人の存在や思いを大切にするための工夫
- 視点 互いの意見から学び合わせるための工夫

(4) 学習指導案の形式

第 学年 算数科学習指導案

本時の学習

(1) 目標 本時のねらいに沿って1つに絞り込む。

(2) 人権教育の視点

視点	具体的手立ての工夫等 記号(~)
視点	〃

(3) 展開

【問題解決的学習】

過程	学習活動	形態	教師の働きかけ	備考
つかむ 分	1 学習課題をつかむ。 問題文	全		
	めあてを書く。			
見通す 分	2 解決の見通しをもつ。	全		カラー サイン
	[]			
やってみる 分	3 自力解決をする。 ・予想される児童の姿	個	予想される児童の反応を書く。	
	[] [] []			
たしかめる 分	4 話し合う。	グ	支援の手立てを書く。 話し合い活性化の手立てを書く。	視点
	[] [] []			
まとめる 分	5 学習のまとめをする。	全	人権教育の視点の手立てを行っている部分に記入する。	視点
	めあてに応じたまとめを書く。			
高める 分	6 練習問題をする。	個		
	7 振り返りをする。		自己評価を行うと共に、本時の活動でよかった点等について知らせ、次時への意欲づけとする。	

(5) 具体的取組

視点 一人一人の存在や思いを大切にするための工夫
視点 互いの意見から学び合わせるための工夫

それぞれの視点における具体的な取組を紹介する。

視点 「一人一人の存在や思いを大切にするための工夫」に対する手立て

レディネステストの活用

単元に入る前に、児童一人一人の既習事項の定着度や、学級全体の傾向、未習事項の理解度を把握するためレディネステストを実施する。結果をもとに、学習計画を工夫したり、休み時間や家庭学習を活用し補充を行ったりする。

ひらめきコーナーの活用

前時までの学習内容や本単元に関わる既習事項などを見やすくまとめ、教室前面のひらめきコーナーに掲示していく。前時までの学習との違いをはっきりさせたり、解決のための見通しをもたせたりすることで、支援が必要な児童への理解の助けなどに役立っている。



カラーサイン・ネームプレートの活用



児童一人一人の活動の様子を教師が効率的に把握し指導に生かしたり、児童同士が互いに学び合ったりするためにカラーサインやネームプレートを活用している。

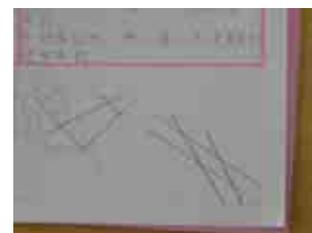
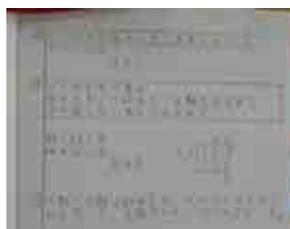
【活用方法の例】

- ・ 自分が選んだ問題の解決方法を色やプレートで表示する。
- ・ 練習問題の進み具合を色やプレートで表示する。
- ・ 解決の仕方が分からない時に赤のサインを入れる。
- ・ 児童同士、自力解決後の学び合いの相手を見つける。



評価の工夫

指導の過程に応じ、教師が児童に言葉かけや丸付けを行って評価をし、励ますことで、学習への意欲付けを行う。授業の終末では、児童が学習の振り返りを行う時間を確保する。学年に応じて、カードやノートを活用、文章や記号での記述と方法を工夫している。振り返りの視点として、学習の内容面での振り返りと、学び合いや頑張りでの振り返りを行うようにしている。振り返りを読み、教師が朱書きを入れることで、一人一人の思いを受け止め、次への意欲付けとなるよう心がけている。



視点 「互いの意見から学び合わせるための工夫」に対する手立て

学び合いの場の工夫

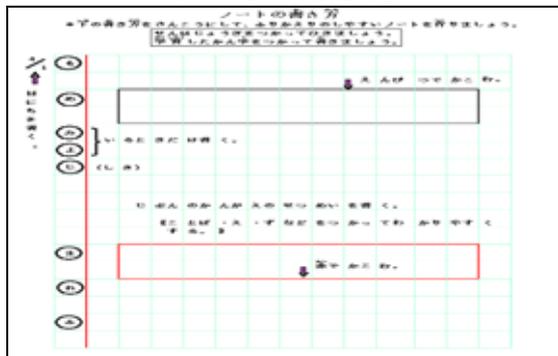
それぞれの考えを確かめ合ったり、教え合ったりする場を設ける。学び合いの形態はねらいに応じてペアであったりグループであったり全体であったりする。



学習の約束

互いの意見からの学び合いを活発にさせるために学習の約束を示し、意見を出しやすくしていく。

ノートの取り方



話し合いの仕方



5. 実践事例についての評価

(取組についての評価)

- ・ 学校教育活動の中で子ども達が様々な場で、自ら自分を表現しようとする姿、また進んでコミュニケーションを取ろうとする態度が見られるようになり、本校の課題がわずかずつではあるが解決の方向に向かっている。

(保護者や地域住民からの反応)

- ・ 人権教育の研究実践を進めることにより、これまで以上に生き生きと自信をもった子どもの姿が見られるようになり学校に対する信頼が更に深まっているのを感じる。

(現在、実施にあたって課題と感じていること)

- ・ 学習時間における自信をつけること、互いのよさを認めることをさらに意識させることなど、今後も豊かな人間関係の中で人権教育を推進していく必要がある。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

島原市立高野小学校

「一人一人の学ぶ意欲を大切にし、学力の確かな定着につなげる算数科の学習に向けた取組」を軸に、「互いのよさを認める人間関係づくりへの取組」「コミュニケーションを大切にした環境づくりへの取組」と結びつけた人権教育の取組をすすめている。「問題解決的学習」「教えて考えさせる授業」を丁寧に計画し実践するとともに、人権教育の視点 「一人一人の存在や思いを大切にするための工夫」として、ひらめきコーナー、カラーサイン・ネームプレートの活用、「互いの意見から学び合わせるための工夫」として、学び合いの場や話し合いの仕方などが丁寧に設定され、これらの学習を通して、「自分を大切にしようとする感情」「自分の思いを表現できる能力」「お互いを認め合う態度」の育成を目指している。小学校における教科学習を通しての人権教育の在り方を示した特色ある事例といえる。